

生きもの調査レポート

2021年6月5日 場所：神奈川県愛川町JONA田んぼ 天気：曇り 気温24度

JONA田植え1週間後（畦草刈り）		
動物調査	出現種数	種名
鳥	13種	トビ、カワウ、ハシブトガラス、ホトトギス、アオサギ、シラサギ類、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ツバメ、セッカ、コゲラ、スズメ、▲ガビチョウ
両生類	3種	アマガエル、トウキョウダルマガエル（声）、シュレーゲルアオガエル（声）
甲殻類	1種	カイミジンコ
水生昆虫	4種	カメムシ：ヒメアメンボ 甲虫：コガムシ、チビゲンゴロウ、ゴマフガムシ
トンボ	3種	ヤンマ類y、ホソミイトトンボ、シオカラトンボ
甲虫	4種	アオバアリガタハネカクシ、メダカハネカクシ、ルリクビボソハムシ、ウリハムシモドキ
その他昆虫	8種	モンシロチョウ、ベニシジミ、シャチホコガy、ムラサキシラホシカメムシ、カゲロウ類、ユスリカ類、コガタノミズアブ、ハチ類（黒大きい）
クモ	3種	徘徊：キクヅキコモリグモ、オスクロハエトリ 造網：アシナガグモ
動物39種 確認 ※y＝幼虫 ▲＝外来種		
目立った生きもの：（たくさんのホソミイトトンボが産卵中）		
畦草調査	出現種数	種名
在来種	46種	畦周り：アオカモジグサ、アケビ、アシカキ、イヌガラシ、イヌワラビ、イノコヅチ、オオジシバリ、オオバコ、オニタビラコ、カラムシ、カキドオシ、カタバミ、カモジグサ、カラスビシャク、カラスノエンドウ、ギシギシ、クサノオウ、コモチマンネングサ、コナスビ、コヒルガオ、セイヨウタンポポ、セリ、センニンソウ、スギナ、ススキ、タデ類、チヂミザサ、チドメグサ、ツメクサ、ツユクサ、トキワハゼ、ノイバラ、ノビル、ノゲシ、ハコベ、ヘクソカズラ、ヘビイチゴ、ホトケノザ、メヒシバ、ヤブカンゾウ、ヤブガラシ、ヨメナ、ヨモギ 水田内：アカウキクサ、アオウキクサ、サヤミドロ
外来種	17種	アカバナユウゲショウ、アメリカフウロ、アメリカセンダングサ、イヌムギ、オオイネノフグリ、オオアレチノギク、オニノゲシ、コセンダングサ、シマスズメノヒエ、シロツメクサ、スズメノヒエ類、タチイヌノフグリ、ネズミムギ、ハルジオン、マメグンバイナズナ、ムラサキカタバミ、メキシコマンネングサ
植物63種確認 ※畦草の外来種率27%		
*17世紀（江戸時代）以降は外来種に入れています。		
※小道を挟んで向かいの畦にイヌガラシ、オヒシバ、カキドオシ、チカラシバなど有り		

田植え後のJONA愛川田んぼ 解説

初畦を丁寧に草刈りしてあったためか、植物が63種類も確認できました。在来の草は季節が変わると譲り合うように生えてくるので、昨年の秋のデータも合わせて見ると80種以上。もし夏も見ることができたら100種類行きそうな状態です。車道も近く、森林や小川と接しているわけでもなく、これだけの草花が見られるというのは、有機農業仕事の成果かもしれません。

動物の方はまだ田植え後1週間ということもあり、あまり見られませんでした。中干し前くらいにすくい取りをやると、水生生物の田んぼ利用状況が分かると思います。目立ったトンボとしては、ホソミイトトンボという越冬するトンボが産卵をしており、最も目立った生きものでした。今回産んだ卵は夏にはトンボになり、150mほど離れたところにある小さな山の森林で越冬するのかもしれませんが。観光栽培の田んぼではあまり見られないので、ホソミイトトンボが観られるのも、曆に近い有機農法が育んでいるお陰だと思っています。



稲に産卵するホソミイトトンボのペア



小山の木に停まるアオサギ



コガタノミズアブ



ベニシジミ



シャチホコガ幼虫



JONAの田んぼの先には小山が見える

